

事例集の使い方

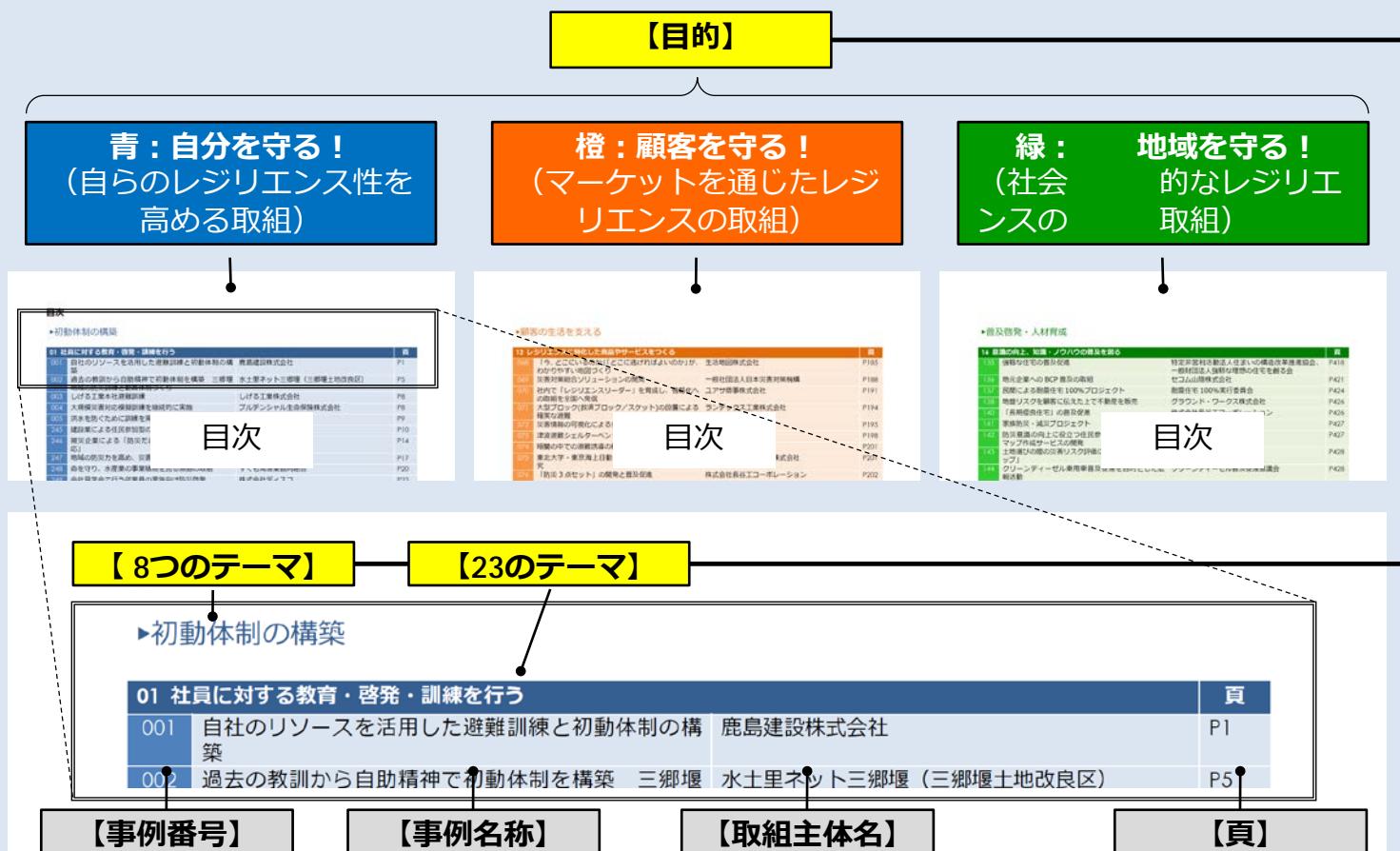
この事例集は、これから国土強靱化に関する取組を行う方々のご事例を掲載しています。「自分を守る!」、「顧客を守る!」、「※なお、ここでの掲載事例は、国土強靱化の取組を広める上でサービスの優位性、協定の質等に関して、評価はしていません。

参考にしていただけるよう、国土強靱化に関して先導的な取組447「地域を守る!」など、さまざまな目的に応じてご活用ください。参考となる模範性、独自性、自主性のある取組としており、商品や

目次の見方について

目次は、主な【目的】、【8つのテーマ】、【23のテーマ】別新規事例を継続事例より前に並べており、事例番号、事例名

にひとまとめにしています。また、各テーマの中では、本年度称、取組主体名、頁を掲載しています。



【目的】	【8つのテーマ】	【23のテーマ】
自分を守る！	初動体制の構築	01 社員に対する教育・啓発・訓練を行う
		02 役割やルールを決める
		03 連携組織をつくる
		04 通信手段の確保や情報の共有を行う
	重要資産の防護と回復力の強化	05 重要施設を防護する
		06 予備施設・バックアップ施設を確保する
		07 安全な地域への移転、分散を行う
	サプライチェーンの維持	08 物流施設の設置、機能強化を行う
		09 サプライチェーンの早期復旧に向けた体制を作る
	エネルギー供給の継続	10 自立・分散型システムを導入する
11 非常用電源・燃料等を確保する		
顧客を守る！	顧客の生活を支える	12 レジリエンスに特化した商品やサービスをつくる
		13 顧客の施設等の耐災害性を強化する
		14 商品やサービスに防災機能を付加する
		15 災害時に顧客へ必需品や必要なサービスを提供する
		16 意識の向上、知識・ノウハウの普及を図る
地域を守る！	普及啓発・人材育成	17 レジリエンス教育を行う
		18 レジリエンス人材を養成する
		19 レジリエンスに取り組むコミュニティを形成する
	被災者等の支援	20 災害時に支援する
		21 復旧・復興を支援する
	地域との連携	22 自然災害や火災を防いでいる
		23 地域の防災の拠点となる

事業者の種類と業種について

【事業者の種類】

事業者が災害にどのように関わるかの観点で、下記4つに分類しています。

- 1.インフラ関連事業者 : 電気、ガス等ライフライン、建設業等
- 2.サプライ関連事業者 : 運輸、衣・食・住等
- 3.その他防災関連事業者 : 防災関連技術、BCP策定支援、防災教育、不動産業(地域開発等)
- 4.その他事業者 : 1. 2. 3以外の事業者

【業種】

総務省 日本標準産業分類の大分類(平成26年4月1日施行)に基づいて、整理しています。

■ 各取組事例の見方

- 【詳細事例】：それぞれのテーマにおける代表的な取組を選び、
- 【概要事例】：それぞれのテーマにおいて、特色や工夫の見ら

【目的】 「目次の見方」に掲載の3つの分類です。	【8つのテーマ】 各事例に共通する課題に応じて設定した大分類です。	【23のテーマ】 各事例に共通する課題に応じて設定した中分類です。	【事例名称】 当該事例の題名です。
-----------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	----------------------

- 【事例番号】
当該事例の整理番号です。
- 【事業者の情報】
取組主体名、掲載年、法人番号、事業者の種類、業種、実施地域を記載しています。

(1) 取組の概要
いつ、どこで、誰が、なにを、何のために、どうやって行ったのかについて記載しています。

(2) 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）
どのような事態を想定し、どう対処したのか。工夫した点や苦労したことなど、取組が完了するまでの過程について記載しています。

地域を守る！ ▶普及啓発・人材育成 19 レジリエンスに取り組むコミュニティを形成する

432 ホタルの飼育と放流・放遊により伝承する水害の記憶

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
長崎市立伊良林小学校ホタルの会【平成29年】	-	その他事業者【教育・学習支援事業】	長崎県

1 取組の概要

- 長崎市立伊良林小学校ホタルの会は、児童・教員、PTA 会員、PTA 会員 OB など、地域住民の有志により構成され、ホタルの放流・放遊を通して、長崎大水害の記憶を次代に引き継ぐ活動を 35 年間継続している。
- 被災者が推進メンバーから引退しても、子どもたちによって、災害を伝承する機会をつくることで、災害を風化させず、地域の災害意識の低下を防いでいる。



▲長崎大水害についての発表

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

水害後の大規模な河川改修でなくなったホタルを、放流することで災害伝承

- 昭和 57 年 7 月 23 日、長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線は、降り始めから翌 24 日までの総雨量 572mm の降雨を記録した。観測史上最大の 1 時間で 187mm を記録しており、土石流や山崩れなどが各地で多発し、国道 34 号の寸断等長崎県では死者・行方不明者 299 人の被害をもたらす未曾有の大災害となった。伊良林小学校区を流れる中島川も氾濫し、源流部にあたる御手水川も鉄砲水が発生した。家が流され、伊良林小学校に通う児童 3 名、保護者 7 名が亡くなった。
- 水害への対策として中島川では大規模な河川改修が行われたが、それを機に以前はみられたホタルの姿がみられなくなった。同会の発起人は、川にホタルを放流することで、被害者の慰霊と水害の記憶を次代に引き継ぐことを考え、長崎水害を語り継ぎ防災に関心を持ってもらうことを目的に、水害の翌年昭和 58 年 5 月に同会を設立した。以来、小学校でホタルを育て、年に一度、中島川にホタルを返す活動を継続している。

【概要事例】

自分を守る！ ▶初動体制の構築 01 社員に対する教育・啓発・訓練を行う

386 水害に備えるボート訓練

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
いちい信用金庫【平成29年】	3180005009479	その他事業者【金融業、保険業】	愛知県

- いちい信用金庫は南海トラフ地震や豪雨による浸水想定地区内の一部の店舗が浸水被害により孤立する場合がありますと想定されることから、水害用ゴムボートを水害により孤立する可能性のある店舗に災害備蓄品として配備した。
- 平成 27 年 9 月には、スポーツセンターやゴムボートのメーカーの協力を得て、ボートの組み立て方や漕ぎ方等の操作訓練を実施し、10 店舗 71 名の職員が参加した。
- 訓練では、職員が緊急時のボートの漕ぎ方訓練として店舗対抗ボート競走を行い、一刻を争う避難を想定したボート漕ぎを体験した。いざ競走をすると、スタート直後からボートが回ってしまい、全くボートが進まない店舗が続出した。講師から「必死になって、全力でボートを漕いだ場合、左右の漕ぎ手のわずかなタイミングのずれにより、推進力が左右に逃げてボートが回転してしまう」とのアドバイスを聞いた。職員は競走等を通じて、緊急時の実践能力向上を進めている。



▲ボート操作訓練の様子

特色ある取組について概要や工夫したことを記載しています。

詳しく掲載しました。
れる取組について、掲載しました。

【詳細事例】

3 取組の平時における利活用の状況

- ホタル委員の児童は飼育を通じ、ホタルの産卵、孵化、脱皮、上陸、羽化といった生態観察を行う。
- また、全校生徒に呼びかけ、中島川や水源地の清掃や水質検査等の環境活動に取り組んでいる。



▲中島川にホタルを返す小学生

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 災害伝承が小学校のカリキュラムに組み込まれることで、地域の水害に対する意識を高く維持している。35年にわたり継続され、水害時、子どもだった被災者が、災害伝承する側に回ることで被災の記憶が、世代を超えて伝承し続けられるサイクルが形成されている。

5 防災・減災以外の効果

- 同会発起人は同校小学3年生を対象に、ホタルをはじめとした地域の自然環境について教える「環境教育」という授業を行っている。こうした授業やホタルの飼育を通じ、子どもたちが生命の尊さを深く考えるようになったと同会は考えている。
- さらにこの会の活動が中心となり、市内各地域でホタルに関わっている人々が集まり平成 10 年「長崎ホタルの会」が発足した。小学校 14 校、15 自治会、対象河川 14 等と活動の輪は拡大している。平成 20 年 6 月には「第 41 回全国ホタル研究会」が長崎市で開催された。

6 現状の課題・今後の展開など

- 同会は活動推進メンバーが不足しており、後継者を育成することが課題となっている。
- 既に上流側では蛍が定着してきてはいるが、下流側でもかつて当地域が蛍茶屋と呼ばれていたように、蛍が定着することを願って、今後も活動を継続する。
- 水道水では幼虫が育たないことから、井戸水を汲み上げたピオトープの計画が地域にあるなど一連活動が浸透している。

7 周囲の声

- ホタルというはかない生き物の飼育を通じて、子どもたちが自然環境保全の大切さや、「いのち」について考える。豪雨災害で失われた「いのち」について思いを馳せ、自然は牙をむくこともあると知り、自分の身を守る術を考える。35年間の取り組みに敬意を表し、今後も続いていくことを願う。（報道機関）

(3) 取組の平時における利活用の状況
災害時以外の活用方法、取組が継続するための工夫を記載しています。

(4) 取組の国土強靱化の推進への効果
取組が、国土強靱化に具体的にどのようなつながるのかを記載しています。

(5) 防災・減災以外の効果
企業イメージの向上等、防災・減災以外の効果を記載しています。

(6) 現状の課題、今後の展開など
取組を進める上での障壁や発展の方向性等、具体的な予定を記載しています。

(7) 周囲の声
取組関係者等の第三者からの評価・評判を記載しています。

採集して校
文体育館で、
がら水害の
馳せ、ホタ
ている。
統的にホタ

普及啓発・人材育成

普及啓発・人材育成

484

国土強靱化 民間の取組事例